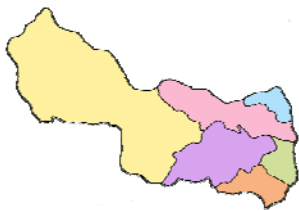




あけましておめでとうございます
今年もすばらしい本との出会いがたくさんありますように
市立図書館では、今年も多くの皆さまに利用していただけるよう、
図書館サービスの充実に努めていきます。よろしくお願いたします。



「徳島堰完成の功労者」

矢崎又右衛門

やざき またえもん

徳島兵左衛門（前号で紹介）の仕事を引き継いだ矢崎又右衛門は、寛永14年（1637）巨摩郡有野村（旧白根町）に生まれ、名は秀長、通称は又右衛門と呼ばれていました。祖先は武川衆青木家の出で武田氏に仕え、信州諏訪の矢ヶ崎（現茅野市）に所領があったところから矢崎氏を称しました。

寛文7年、徳島兵左衛門が武川・西郡新田堰の工事から手を引くと、甲府藩の城代戸田周防守は、家臣の津田伝右衛門と地元の有力者だった矢崎又右衛門に堰の復旧工事を命じました。

又右衛門は工事のために、私財にとどまらず身内から多額の借財をし、取り入れ口の堤防の建設、両岸の石垣化など、3年の年月をかけて堰を完成させ、寛文11年に藩に引き渡しました。堰は創始者の名を取って「徳島堰」と命名されました。

藩は又右衛門に工事の続行を命じた折、費用の点で難儀をかけることはしないこと、完成後には藩土に取り立てることなどを約束しました。しかし、藩は又右衛門を藩土に取り立てることはなく、一切の費用さえも支払いませんでした。又右衛門は困窮のあまり、米の拝借願いまでも提出するに至りましたが、これも毎年十俵を返納するなど、借財は子の代まで続きました。私財を使い果たした又右衛門は、困窮と失意のうちに、貞享2年（1685）49歳でこの世を去りました。

灌漑用水によって生まれ変わったこの扇状地は、徳島兵左衛門や矢崎又右衛門の多大な犠牲を伴う働きの上に築かれたのでした。

引用・参考文献：『郷土史にかがやく人々 集合編Ⅲ』ほか



矢崎家住宅

矢崎又右衛門に関する本

『郷土史にかがやく人々 集合編Ⅲ』 青少年のための山梨県民会議
『徳島堰』 三枝 善衛／編 徳島堰組合
『南アルプス市ふるさと歴史めぐり第7集』 南アルプス市郷土研究部
『西郡史話』 中込 松弥／著・中込 義守／編 西郡史話刊行会
『白根町誌』 白根町誌編纂委員会編 白根町

南アルプスが誇る偉人

No.6

団体貸出お届けサービスの紹介

図書館では、市内の公共施設などに本を定期的に届けるサービスを行っています。現在、福祉施設・保育所・児童館・放課後児童クラブなど計41ヶ所へ、施設に近い図書館から本を届けています。

① 本の準備をします。



② 職員が配送します。



【図書館で】

③ 本の入れ替えをします。



④ 施設での利用状況や本の要望などを聞き、前回の貸出本を持ち帰ります。



【施設内で】

～ 本の利用風景～

本に接する機会が増え、皆さまの読書が広がることを願いながら届けています。

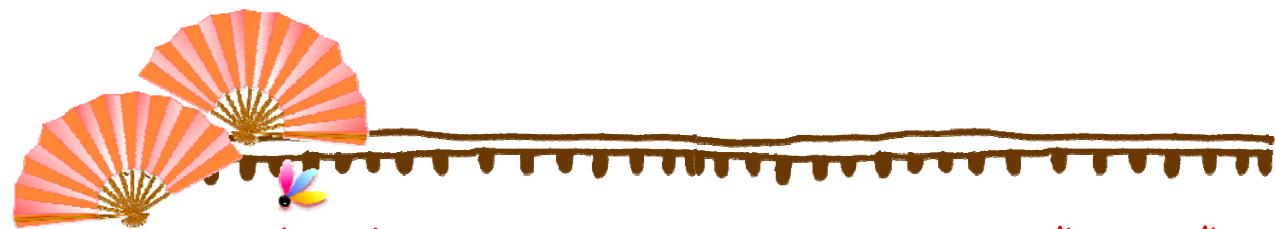


団体貸出お届けサービス

- 対象施設：市内の公共施設など
(保育所・幼稚園・放課後児童クラブ・児童館・福祉施設など)
- 貸出冊数：基本30冊
- 貸出期間：1ヶ月 ※詳しくはお近くの図書館にお問合せください。

本が327,000冊・雑誌が217タイトル・CDやDVD等が7,700点と多くの資料を取り揃えて、皆さまのご利用をお待ちしています。各図書館にも足をはこんで、すてきな本との出会いを楽しんでください。





図書館のホームページへどうぞ ～レファレンス事例紹介から～



知りたいことを図書館で調べようとしたとき、「たくさんの中からの本を見たらよいのかわからない」と思い悩んだことはありませんか。

そんな時には、図書館職員に声をかけてください。

図書館では、利用者の皆さまがご覧になりたい資料や調べたい事柄、必要な情報を探すお手伝いをする「レファレンスサービス」を行っています。これまでも多くの方からご相談をいただきました。その中の一部をレファレンス事例として図書館のホームページで紹介しています。



レファレンス事例紹介 ～新年から春に関するもの～

Q 下市之瀬の獅子舞の起源はいつか

A 下市之瀬の獅子舞の起源は享保年間(1716～35)といわれる。青少年が悪習に染まることをふせぐため、敬神と娯楽を兼ねて正月14日の道祖神祭典の奉納神楽としてこの獅子舞を取り入れたと伝えられている。安政3年(1856年)正月の記録に、正月の5、6日から稽古を始め、7日または11日までに道祖神飾りをする、14日の夜その年お祝いのあった家にてかけ獅子を舞って祝い、28日には火伏せとして寺で獅子を舞ったことが報告されている。

『山梨の民俗芸能』 水木 亮／著 東京：勉誠出版 Y/386/ミ

『榎形町誌』 榎形町誌編集委員会／編集 榎形町(山梨県)：榎形町 YG/291.5/7

Q おしるこぜんざいの違いについて知りたい



A 関東では、すする程度の漉し餡仕立てが汁粉、つぶし餡の入ったものは田舎汁粉、箸が立つほど濃いものは善哉という。善哉も汁粉も同類の甘味だが、歴史は善哉のほうが古い。

『日本大百科全書 12』 東京：小学館 R/031/ニ/12

『たべもの起源事典』 岡田 哲／編 東京：東京堂出版 R/383/ヲ ほか

Q お正月に飾る門松の竹の先を、斜めに切っていないものがあると聞いたがどうしてか

A 戦国時代、武田と徳川が戦いの中で正月を迎え、両軍とも門松を競って作った。徳川方は竹の先を斜めに切ったが、武田方は竹の節のところで平らに切り落とした。これを見た両軍は、お互いに相手をからかったという。

武田方で「松(徳川)枯れて、竹(武田)たぐひなきあしたかな」と言えば、徳川方では「松(徳川)枯れて、竹だ(武田)くび(首)なきあしたかな」とやり返したという。このことから、甲州では門松の竹の先を斜めに切ることを忌み嫌い、竹の先を平らにするようになったと言われている。

『やまなしの民俗 上巻』 上野 晴朗／著 東京：光風社書店 Y/386/ウ/1

『暮しに生きる日本のしきたり』 丹野 颯／著 東京：講談社 382/ヲ



Q 十日市について知りたい

A 十日市場地区にある安養寺の祭りのおりに、古くから市が立ったことで知られている。

『若草町誌』 若草町誌編集委員会／編集 若草町(山梨県)：若草町 YG/291.5/7

『山梨の祭り』 若林 賢明／著 甲府：山梨日日新聞社 Y/386/7 ほか



Q 雛人形を飾る時、男びなは向かって左、女びなは向かって右に飾り、桜と橘も位置が決まっているが、謂れがあるのか

A もともと日本では左側が上位、右側は下位の考えがあり、向って右に男びな、左に女びなを飾っていた。しかし昭和天皇が即位された時に、西洋方式で天皇が向かって左に、皇后が右に並んだ写真が報道されたため、一般の人もそれにならって内裏びなも同じように飾られるようになった。関西などでは、今も男びなを向かって右側に飾っている。桜と橘は宮廷の庭を例えており、向かって左に橘、右に桜を配置する。

『日本史広辞典』 日本史広辞典編集委員会／編 東京：山川出版社 R/210/ニ

『和ごよみと四季の暮らし』 新谷 尚紀／監修 東京：日本文芸社 386/7 ほか

この他にもいろいろな事例が図書館ホームページに載っていますのでご覧ください。

調べたいこと、わからないことがありましたらご相談ください。

資料をお探しのときは、お気軽にお尋ねください。

○各図書館のカウンター

○電話

○Eメール(図書館ホームページ・レファレンスをご覧ください。)

